

GSEスリランカ派遣チーム報告会

研究グループ交換委員会 委員長
田中 義久 (大阪西RC)

2012年5月25日、北区にあるパーティ会場にてGSEスリランカ派遣チームの報告会が行われました。この報告会をもって、2010年5月頃より準備してきたスリランカとの交換研修が終了しました。

例年は単年度で各地区との派遣・受入という交換研修が行われるのですが、スリランカとの交換においては第2660地区の費用でその両者が行われることが決まっていたので、2011年4月にスリランカチームの受入を行い、2012年3月に日本チームのスリランカへの派遣を行うことになっていました。準備万端整え終わったのは受入の約一カ月前でしたが、そんな時に3.11東日本大震災が発生したのです。それにより、一旦はこの交換研修は中止となったのです。しかし、スマトラ沖地震による津波被害を経験したスリランカの地区メンバーは、福島原発の風説被害をものともせず、交換研修を強く希望し、半年遅れの10月に受入を行い、翌4月に派遣を行うことが再度決定したのです。

今回は本当に様々なトラブル・ハプニングがありました。選考に際し、5名の募集に対し6名の応募しかなく集まらなかったことや、地震の影響でスケジュールを再構成しなければならなかったこと、さらにスリランカからの書類の提出が遅れたり、国際ロータリーの規約に適したスケジュールを組んでくれなかったりと冷や汗の連続でした。



特に日本からの派遣チームは、それぞれ職業が異なるにもかかわらず、5人一緒の行動スケジュールがほとんどで、各自の職業研修プログラムはほとんど組まれていなかったようです。

しかし、それぞれのメンバーは泉博朗団長を中心に、それぞれ工夫して、例えば自ら消防署を訪れて日本の消防活動・救急活動を説明し、一泊宿直を経験するなど自ら研修プログラムを申出たり、日本ではルーズとしか言えない時間の感覚にじっと耐えたりということがあったようです。

団員は1名の女性と3名の男性でしたが、スリランカでの報告をする彼らは出発前に比べて確かにしっかりとした顔つきになっており「男子三日見ざれば刮目して見よ」という言葉が頭によぎりました。

今年度は新委員長の急な入院により、急遽その代役となった私ですが、退院し復帰された岸上前委員長と共にたくさんの皆さまのご支援をいただき無事プログラムを終了させることのできた感謝の意を表したいと思います。